

化学品の名称: テロンTM

発行日: 2022/06/08

印刷日: 2022/07/28

テレオス・アグ・ソリューションズ株式会社は、この製品の使用者が、重要な情報を記載しているこの(M)SDSを熟読され、ご理解されるようお願いしております。使用条件によって他の対応を必要とする場合以外は、記載注意事項を遵守されるようお願い致します。

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称: テロンTM

推奨用途及び使用上の制限

特定用途: 土壌くん蒸剤。

供給者の会社名称、住所、及び電話番号

テレオス・アグ・ソリューションズ株式会社

〒150-0043

東京都渋谷区道玄坂 1-12-1

渋谷マークシティ W16 階 (受付 W22 階)

会社電話番号:

03-4360-5356

緊急連絡電話番号

24 時間対応緊急連絡先: 0120-00-1017

緊急連絡電話番号: 0120-00-1017

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

引火性液体 - 区分 3

急性毒性 - 区分 3 - 経口

急性毒性 - 区分 3 - 吸入

急性毒性 - 区分 3 - 経皮

皮膚腐食性/刺激性 - 区分 2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 - 区分 2A

皮膚感作性 - 区分 1

発がん性 - 区分 2

特定標的臓器毒性 (単回ばく露) - 区分 3

誤えん有害性 - 区分 1

水生環境有害性 短期 (急性) - 区分 1

水生環境有害性 長期 (慢性) - 区分 1

**GHS ラベル要素
絵表示又はシンボル**

注意喚起語: **危険**

危険有害性情報

引火性液体及び蒸気。

飲み込んだ場合や皮膚に接触した場合や吸入した場合は有毒。

飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

皮膚刺激。

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

強い眼刺激。

呼吸器への刺激のおそれ。

発がんのおそれの疑い。

長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

注意書き**安全対策**

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。

容器を密閉しておくこと。

容器を接地すること／アースをとること。

防爆型の【電気機器／換気装置／照明機器】を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

ミスト／蒸気の吸入を避けること。

取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

環境への放出を避けること。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

応急措置

飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。

皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師に連絡すること。

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当てを受けること。

無理に吐かせないこと。

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。

眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。

火災の場合: 消火するために水スプレー、耐アルコール性フォーム、粉末消火剤(ドライケミカル)又は炭酸ガスを使用すること。

漏出物を回収すること。

保管

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

施錠して保管すること。

廃棄

内容物/容器を承認された処理施設に廃棄すること。

他の有害危険性

データなし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別: 化学物質

化学名	CASRN	化審法番号	安衛法番号	濃度又は濃度範囲
1,3-ジクロロプロペン	542-75-6	(2)-125	2-(13)-29	97.5%
その他の成分	NA			2.5%

4. 応急措置

必要な応急措置

一般的アドバイス:

応急措置担当者は自分の安全確保に注意を払い、推奨されている防護服(耐薬品手袋、飛沫防護)を使用する。ばく露する可能性がある場合は、第8項の保護具の情報を参照。

吸入した場合: 新鮮な空気のある場所に移動させ、呼吸を快適に保つ。呼吸停止の時は人工呼吸を施す。マウスツーマウス式人工呼吸を行う時は、レスキュー用保護具(ポケットマスクなど)を使用する。呼吸困難の時は、有資格者が酸素吸入を行う。医師を呼ぶか、医療機関に搬送する。

皮膚に付着した場合: 汚染された衣類を脱がせる。石鹼と大量の水で 15~20 分間皮膚を洗う。医師に治療のアドバイスを求めること。汚染を取り除くことができない靴やベルト、時計バンド等の革製品は廃棄する。すぐに使用できる適切な緊急用安全シャワー設備を設置すること。

眼に入った場合: 直ちに水で眼を洗い流す。コンタクトレンズを装着している場合は、洗い始めて 5 分経ってからはずし、さらに 15 分以上洗眼を続ける。迅速に医師の診断を受ける。眼科医が望ましい。すぐに使用できる適切な緊急用洗眼設備を設置すること。

飲み込んだ場合: 嘔吐させない。直ちに医師の診察を受けるか、救急病院に搬送する。直ちに医師の診察を受ける。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状:

上記の応急措置の記述、下記の緊急治療及び必要とされる特別処置の指示に記載されている情報に加えて、重要な症状や影響は項目 11 の有害性情報に記載されている。

緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

医師に対する特別な注意事項: 患者に十分な換気および酸素吸入を維持すること。喘息の様な(反応性気道)症状を起こすことがある。気管支拡張薬、去痰薬、鎮咳薬およびコルチコステロイドが有効なことがある。熱傷を負っている場合は、除染ののち、熱による熱傷と同じように治療する。胃洗浄を行う場合、気管内や食道の管理が必要である。胃洗浄を考える時は、肺への吸引による危険性と毒性影響を比較検討しなければならない。吐かせるかどうかの判断は医師が行うこと。動物実験では、この物質は皮膚感作性の可能性があると示している。しかし、この物質の製造に携わっている従業員では、皮膚感作性は報告されていない。特別な解毒剤はない。ばく露に対する治療は、患者の症状に応じて臨床的処置を行う。中毒情報センターや医師に電話する場合、または治療を受けに行く場合は、この安全データシートのほか、できれば製品の容器またはラベルを手元に用意すること。過剰暴露を繰り返すと、既存の肺疾患が悪化することがある。皮膚接触により既存の皮膚炎が悪化することがある。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤: 水噴霧または散細水。粉末消火器。二酸化炭素消火器。泡消火剤。入手できれば、一般合成泡消火剤(AFFF 型など)またはタンパク泡消火剤が望ましい。耐アルコール泡消火剤(ATC 型)も機能するであろう。静かな水噴霧は、消火用ブランケットとして使用できる。耐アルコール泡消火剤、乾燥砂、粉末消火剤

使ってはならない消火剤: 直接棒状放水しない。直接の棒状放水は消火に有効でないかもしれない。大型棒状の水、直接棒状放水しない

特有の危険有害性

有害燃焼副産物: 火災時の煙には、元の物質に加えて、毒性や刺激性があるかもしれない様々な燃焼生成物が含まれていることがある。燃焼生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない: 塩化水素。一酸化炭素。二酸化炭素。

異常な火災および爆発の危険: 火災の際、ガスの発生により容器が破裂することがある。すべての設備にアースをとる。この物質の引火性混合物は、静電放電でも容易に発火する。蒸気は空気より重く、長い距離を移動して低い場所に蓄積することがある。発火やフラッシュバックが起こることがある。室温で、容器の蒸気スペースに引火性混合物が存在するかもしれない。蒸気は累積し、引火点を上回る温度では引火濃度に至る。第9項を参照。かなりの距離にわたり逆火が考えられる。燃焼生成物への曝露は健康に害を及ぼす場合がある。室温で容器の蒸気スペースに引火性混合物が存在するかもしれない。火や極度の高温にさらされると圧力が高まり密閉容器が破裂することがある。蒸気は空気と混合して爆発性になることがある

消防士へのアドバイス

消火手順: 人々を避難させる。火を隔離して関係者以外の立ち入りを禁止する。風上にいること。ガス(ヒューム)が蓄積する可能性のある低い場所に入らない。水は消火に有効ではないと思われる。火が消えて再発火の危険がなくなるまで、水スプレーを用いて火に曝された容器および火災の影響を受けた領域を冷却する。保護された場所から、あるいは十分に安全な距離から消火に当たる。無人ホースホルダーまたはモニターノズルの使用を考慮する。安全弁装置から聞こえる音が大きくなったり、容器の色が変わったりした時は、直ちに全ての人をその場所から退避させる。直接棒状放水しない。火災を広げるかもしれない。引火源を除去すること。危険を伴わずにできるのであれば、容器を火災場所から移動させる。人の保護や建物の損害を最小限にするために、燃焼する液体を水で流して移動させることもできる。静かな水噴霧は、消火用ブランケットとして使用できる。可能なら消防水の流出を防ぐ。消防水の流出を防げないと環境破壊を引き起こす可能性がある。本SDSの「漏出時の措置」および「環境影響情報」の項を参照する。未開封の容器を冷却するために水を噴霧する。区域から避難させること。汚染した消火廃水は回収すること。排水施設に流してはならない。火災の残留物や汚染した消火廃水は、関係法規に従って処理する。棒状水による消火は、火災が激しくなったり飛び火したりするので、行ってはならない。現場の状況と周辺環境に応じて適切な消火手段を用いる。安全であれば未損傷コンテナを火災領域から離す。

消火を行う者の保護: 陽圧式自給式呼吸器(SCBA)および防火服(防災ヘルメット、コート、ズボン、長靴および手袋を含む)を着用する。消火活動の際、この物質との接触を避ける。接触の可能性がある場合は、耐薬品性の防火服と自給式呼吸器を使用する。もしこれらが無い場合は、自給式呼吸器付き耐薬品性の全身服を使用し、離れた場所から消火活動する。火災後または火災ではなく清掃時に用いる保護具については、関連の項を参照する。火災時には、自給式呼吸器を着用する。保護具を使用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置: 場所を隔離する。不必要な人や保護具を装着していない人の、その場所への立ち入りを禁止する。項目7の取扱い注意事項を参照。低い場所を立ち入り禁止にする。流出物の風上にいること。漏れたり流出した場所を換気する。場所内は禁煙とする。火災や爆発を回避するため、流出物または放出された蒸気の近くから着火源となるものをすべて除去する。蒸気爆発の危険がある。下水道に混入させない。大量に流出した場合は、風下の住民に爆発の危険性を警告する。再びその場所に入る前に可燃性ガス検知器でチェックすること。すべての容器および取り扱い装置にアースをとる。適切な保護具を用いること。追加情報として、

第8項、暴露防止及び保護措置を参照。 付近の発火源となるものを取り除く。保護具を使用する。安全な取り扱いの助言や、個人保護具の推奨事項に従う。

環境に対する注意事項: 土壌、排水溝、下水道、水路や地下水への流入を防ぐ。項目12の環境影響情報を参照。 自然の水路に漏洩するか放出されると、水生生物を殺す可能性が高い。 規定されたレベル以上の水環境で製品を放出しないでください。安全を確認してから、もれやこぼれを止める。広範囲に広まるのを防ぐ（封じ込めまたはオイルバリアなどによる）。汚染された洗浄水を保管し、処分する。流出が著しく回収できない場合は、地方自治体に通報する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材: すべての容器および取り扱い装置にアースをとる。 防爆型ポンプを使用する。利用できれば、泡を用いて覆うか抑える。可能なら、漏出物は回収する。少規模の漏洩：以下の物質で吸収させる：粘土。泥。砂。掃き取る。正しくラベルの貼ってある適切な容器に回収する。大規模の漏洩：浄化（clean-up）の支援を必要とする場合、弊社に連絡してください。追加情報として、項目13の廃棄上の注意を参照。 防爆用工具を使用しなければならない。不活性な吸収材で吸収させる。ガス／蒸気／ミストを水スプレージェットで抑える（除去する）。適切な吸収剤を使用して漏洩物を除去すること。本製品を放出、廃棄する場合には、各地方自治体および国の規制に従って処理すること。その放出に使用された物質についても同様である。どの規制が適用されるか確認する必要がある。多量にこぼれた場合、防波堤を築く等の適切な封じ込め手段を講じて、広がらないようにすること。防波堤に使用した資材をポンプで吸い上げることができる場合には、回収した物質を適切な容器内に保管する。
以下の項目を参照のこと：7, 8, 11, 12 および 13

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い: 子供の手の届かないところに置くこと。 熱、火花、炎から遠ざける。 物質を輸送または使用する前に、すべての容器、作業員および設備にアースをとっておくこと。 蒸気は空気より重く、長い距離を移動して低い場所に蓄積することがある。発火やフラッシュバックが起こることがある。眼、皮膚、衣服との接触を避ける。 蒸気またはミストの吸入を避ける。 飲み込まない。 取り扱った後は十分に洗うこと。 容器を閉じて保管すること。 適切な換気装置の下でのみ使用する。 製品を輸送するのに空気圧を利用してはならない。 取り扱い場所および保管場所は禁煙、裸火および着火源は禁止とする。 空になったとしても容器は蒸気を含んでいることがある。空の容器やその近くで、切断、ドリル、研磨、溶接等の作業を行わないこと。 作業の種類に応じて、防爆装置の使用が必要になると思われる。 項目8のばく露防止及び保護措置を参照。

皮膚や衣服に付けない。蒸気やスプレーミストを吸い込まない。飲み込まない。眼との接触を避ける。容器を密閉しておくこと。熱や発火源から遠ざける。静電気放電に対して予防処置手段をとること。漏れや廃棄物を防止し、環境への放出を最小限にするよう注意する。防爆用工具を使用しなければならない。十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。空容器は危険有害性。空容器の内部には残留物質が存在するので、容器が空になった後も、(M)SDS および警告表示をすべて遵守すること。局所換気を行い使用する。防爆型排気ガス換気装置を備えた区域においてのみ使用する。容器を接地しアースをとること。

保管: 静電気の蓄積、熱、火花または炎などの引火源を最小限に抑える。 容器を閉じて保管すること。 この中に保管してはいけない： 亜鉛。 アルミニウム。 アルミニウム合金。 マグネシウム。 マグネシウム合金類。 室温で、容器の蒸気スペースに引火性混合物が存在するかもしれない。 乾燥した場所に保管すること。 納品時の容器でのみ保管する。 容器を密閉しておくこと。 食品、食材、医薬、飲料水の近くに保管しない。

適切なラベルのついた容器に入れておく。施錠して保管すること。栓をしっかりと閉める。涼しい、換気の良い場所で保管する。各国の規定に従って保管する。熱や発火源から遠ざける。

保管安定性

貯蔵期間以内に使用する： 2 年

次の製品種類といっしょに保管しない：強酸化剤、有機過酸化物、可燃性固体、自然発火性液体、自然発火性固体、自己発熱性化学品、水反応可燃性化学品、爆発物、ガス
容器に不適な素材：知見なし。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

ばく露限界値が存在する場合は以下に記載されている。ばく露限界が表示されていない場合は適用しない。

化学名	国際規制	リストのタイプ	価値
1,3-ジクロロプロペン	ACGIH	TWA	1 ppm
	詳細情報: A3: ヒト関連性は不明な動物発がん性物質; Skin: 皮膚吸収の危険性		
	日本産業衛生学会 (許容濃度)		詳細情報参照
	詳細情報: 2B: 発がん物質, 「第2群B」に分類される物質は, 証拠が比較的十分でない物質, すなわち, 疫学研究からの証拠が限定的であり, 動物実験からの証拠が十分でない。または, 疫学研究からの証拠はないが, 動物実験からの証拠が十分である。		

製造、混合作業、および包装作業に従事する労働者に対する推奨。散布作業者及び取扱者はラベルを読み、適切な防護具および防除服を装着すること。

ばく露防止

設備対策: 空气中濃度が許容濃度以下に保てるよう制御する。許容濃度が設定されていない場合、適切な全体換気を行う。一部の作業には局所排気装置が必要になることがある。

保護具

呼吸用保護具: 許容濃度を超える可能性がある場合は、呼吸器用保護具を着用する。許容濃度が未設定の場合、認可された呼吸器用保護具を使用する。特定の作業や物質の空气中濃度の可能性に応じて、空気清浄呼吸器又は陽圧送気マスクを選定する。緊急時には、認可された陽圧自給式呼吸器を使用する。

以下は効果的な空気清浄呼吸器の種類である： 防塵フィルター付き有機ガス用。

手の保護具: この物質に対し耐薬品性のある手袋を用いること。望ましい手袋の素材の例：エチルビニルアルコールラミネート(EVAL)。 バイトン。許容できる手袋の素材の例：ネオプレン。 ニトリル/ブタジエンゴム(ニトリルまたはNBR)。 注意：特定の用途と作業場での使用時間に適合した手袋を選択するときは、以下に記す要件をはじめとして、作業上の要件をすべて考慮に入れる必要がある：取り扱う可能性がある他の化学物質、物理的要件（切傷・刺し傷の予防、機敏さ、熱の防護）、手袋の供給業者からの説明書・仕様書。

眼の保護具: ケミカルゴーグルを使用する。ばく露により眼に不快感がある場合は、フルフェイス型呼吸器を使用する。

皮膚及び身体の保護具: この物質に耐薬品性のある保護衣を着用する。作業内容に応じて、顔面シールド、長靴、エプロンまたは全身防護服などの保護具を選択する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	無色～黄色
臭い	甘い臭い
臭いの閾値	データなし。
pH	6.5 1% <i>CIPAC MT 75</i> (1%水溶性懸濁液)
融点／凝固点	
融点	適用不可。
凝固点	データなし。
沸点又は初留点及び沸騰範囲	
沸点 (760 mmHg)	107 ° C 推定
引火点	密閉式引火点試験 27 ° C <i>EC Method A9</i>
蒸発速度 (フイルアセート=1)	データなし。
可燃性	
可燃性 (固体、気体)	適用なし
可燃性 (液体)	帯電性の引火性液体ではないと考えられる。
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	
爆発範囲の下限	データなし。
爆発範囲の上限	データなし。
蒸気圧	23 mmHg @ 20 ° C
相対ガス密度	
相対蒸気密度 (空気=1)	3.8
密度及び／又は相対密度	
比重・相対密度 (水=1)	1.21 @ 20 ° C / 4 ° C 比重計
溶解度	
水への溶解度	不溶
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	log Pow: 1.82 - 2.1 測定値
自然発火点	92/69/EEC A15 400°Cを下回らない
分解温度	データなし。
粘度 (粘性率)	0.66 mPa.s @ 40 ° C
動粘性率	0.636 mm ² /s @ 20 ° C
爆発特性	データなし
酸化特性	データなし
液体密度	1.211 g/cm ³ @ 20 ° C デジタル式密度計
分子量	データなし
粒子特性	
粒子サイズ	データなし

注記: 上記の物理データは、代表値であり、仕様として解釈されるべきものではない。

10. 安定性及び反応性

反応性: 通常の使用条件において既知の危険な反応はない。反応性危険として分類されない。

化学的安定性: 高温時に不安定。 通常の状態では安定。

危険有害反応可能性: 強い酸化剤と反応することがある。蒸気は空気と爆発性混合物を形成することがある。引火性液体及び蒸気。
重合は起こらない。

避けるべき条件: 高温にさらされると製品は分解する。 分解によるガスの発生が密閉システム内の圧力を上昇させる。 静電気の放電を避ける。 熱、炎、火花。

混触危険物質: 以下との接触は避ける: 酸。 塩基類。 酸化剤。 以下のような金属との接触は避ける: 亜鉛。 カドミウム マグネシウム。 アルミニウム。 アルミニウム合金。 酸化剤との接触は避ける。

危険有害な分解生成物: 分解生成物は温度、空気の供給および他の物質の存在による。 分解生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない: 一酸化炭素。 二酸化炭素。 塩化水素。 分解時に有毒ガスが放出される。 分解生成物は以下のものを微量に含むことがある: ホスゲン。

11. 有害性情報

本項にはデータが存在する場合に毒性情報が記載される。

可能性のある暴露経路情報

吸入、眼に入った場合、皮膚接触、飲み込んだ場合。

急性毒性 (即時影響を及ぼす短期間ばく露を示す。特に断りのない限り慢性/遅延影響は見られない。)

急性毒性 (経口)

製品情報:

誤飲すると中等度の毒性がある。 通常の作業での誤飲では傷害は起こらないであろう。ただし、大量に誤飲すると傷害を引き起こすことがある。 誤飲すると、消化管刺激作用を起こすことがある。

製品の試験に基づく:

LD50, ラット, > 110 mg/kg

成分情報:

1,3-ジクロロプロペン

単回経口投与の LD50 のデータなし。 LD50,

類似物質について LD50, ラット, 110 mg/kg

その他の成分

単回経口投与の LD50 のデータなし。

急性毒性（経皮）**製品情報：**

長期間又は広範囲の皮膚接触で、有害量を吸収することがある。

製品の試験に基づく：

LD50, ウサギ, 333 mg/kg

成分情報：**1,3-ジクロロプロペン**

経皮 LD50 は決定されていない。

類似物質について LD50, ウサギ, 333 mg/kg

類似物質について LD50, ラット, 1,200 mg/kg

その他の成分

経皮 LD50 は決定されていない。

急性毒性（吸入）**製品情報：**

長期間過剰暴露すると、重篤な有害影響を起こすことがあり、死に至ることもある。過剰暴露すると、上気道(鼻と喉)および肺に刺激作用を来すことがある。動物にみられる所見には以下のものがある： 倦怠感。

製品の試験に基づく：

LC50, ラット, 4 h, 蒸気, > 2.7 - < 3.07 mg/l

成分情報：**1,3-ジクロロプロペン**

LC50 は決められていない。

類似物質について LC50, ラット, 4 h, 蒸気, 2.7 - 3.07 mg/l

その他の成分

LC50 は決められていない。

皮膚腐食性／刺激性**製品情報：**

製品の試験に基づく：

短時間接触で、局部発赤を伴う中程度の皮膚刺激を起こすかもしれない。

皮膚の乾燥および剥離を引き起こすことがある。

成分情報：**1,3-ジクロロプロペン**

類似物質について

短時間接触で、局部発赤を伴う中程度の皮膚刺激を起こすかもしれない。

皮膚の乾燥および剥離を引き起こすことがある。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性**製品情報：**

製品の試験に基づく：

激しく眼を刺激することがある。

軽度の角膜損傷を起こすことがある。

蒸気は流涙症を起こすことがある。

蒸気は軽度の不快感や充血を伴い眼を刺激することがある。

成分情報：**1,3-ジクロロプロペン**

類似物質について

激しく眼を刺激することがある。

軽度の角膜損傷を起こすことがある。

蒸気は流涙症を起こすことがある。

蒸気は軽度の不快感や充血を伴い眼を刺激することがある。

呼吸器感作性又は皮膚感作性**製品情報：**

皮膚感作性：

動物試験では、1,3-ジクロロプロペンは皮膚感作性の可能性があると示している。

呼吸器感作性：

関連のあるデータは得られていない。

成分情報：**1,3-ジクロロプロペン**

動物試験では、1,3-ジクロロプロペンは皮膚感作性の可能性があると示している。

呼吸器感作性：
関連のあるデータは得られていない。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

製品情報：

呼吸器への刺激のおそれ。
ばく露経路：吸入
標的臓器：気道

成分情報：

1,3-ジクロロプロペン
呼吸器への刺激のおそれ。
ばく露経路：吸入
標的臓器：気道

誤えん有害性

製品情報：

飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

成分情報：

1,3-ジクロロプロペン
経口摂取や嘔吐の際、肺への吸引の恐れがあり、急速に吸収され、他の全身機能に傷害を起すこともある。

慢性毒性（反復投与による慢性／遅延影響を及ぼす長期間ばく露を示す。特に断りのない限り即時影響は見られない。）

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

製品情報：

製品の試験に基づく：
動物では、以下の臓器に影響することが報告されている：
膀胱。
鼻の組織。
肝臓。
肺。
消化器官。
気道。
血液形成器官（骨髄と脾臓）。

成分情報:**1,3-ジクロロプロペン**

類似物質について

動物では、以下の臓器に影響することが報告されている:

膀胱。

肝臓。

肺。

消化器官。

気道。

鼻の組織。

血液形成器官 (骨髄と脾臓)。

発がん性**製品情報:**

製品の試験に基づく: 実験動物では、経口投与により発がん性を示した。吸入暴露すると、オスマウスにおいて良性肺腫瘍の発生率が増大した。

成分情報:**1,3-ジクロロプロペン**

類似物質について 実験動物では、経口投与により発がん性を示した。吸入暴露すると、オスマウスにおいて良性肺腫瘍の発生率が増大した。

催奇形性**製品情報:**

製品の試験に基づく: 母体に毒性影響を起こした摂取量でも、催奇形性や他の胎児への影響はなかった。

成分情報:**1,3-ジクロロプロペン**

類似物質について 母体に毒性影響を起こした摂取量でも、催奇形性や他の胎児への影響はなかった。

生殖毒性**製品情報:**

製品の試験に基づく: 動物試験では、生殖を阻害しなかった。

成分情報:

1,3-ジクロロプロペン

類似物質について 動物試験では、生殖を阻害しなかった。

生殖細胞変異原性**製品情報:**

製品の試験に基づく: インビトロ遺伝毒性試験では、陰性結果もあったが陽性結果もあった。動物遺伝毒性試験は陰性だった。

成分情報:**1,3-ジクロロプロペン**

類似物質について インビトロ遺伝毒性試験では、陰性結果もあったが陽性結果もあった。動物遺伝毒性試験は陰性だった。

12. 環境影響情報

本項にはデータが存在する場合に生態毒性情報が記載される。

生態毒性**魚類に対する急性毒性**

物質は、水生生物に対して高い急性毒性を示す(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 0.1~1 mg/L)。

LC50, *Oncorhynchus mykiss* (ニジマス), 96 h, 2.78 mg/l

LC50, *Cyprinodon variegatus* (シープスヘッドミノー), 96 h, 0.87 mg/l

LC50, *Lepomis macrochirus* (ブルーギルサンフィッシュ), 96 h, 3.7 mg/l

無脊椎動物に対する急性毒性

EC50, *Daphnia magna* (オオミジンコ), 48 h, 3.58 mg/l

EC50, イースタン オイスター (*Crassostrea virginica*), 48 h, 0.64 mg/l

藻類/水生植物に対する急性毒性

EbC50, *Pseudokirchneriella subcapitata* (緑藻), 止水式試験, 72 h, バイオマス, 14.9 mg/l

EC50, 珪藻 (*Navicula* 属), 120 h, バイオマス, 2.35 mg/l

EC50, イボウキクサ (*Lemna gibba*), 14 d, 14.56 mg/l

水生環境有害性 長期 (慢性)**魚類に対する慢性毒性**

最大無影響濃度, *Pimephales promelas* (ファットヘッドミノウ), 流水式試験, 33 d, 生存, 0.0318 mg/l

無脊椎動物に対する慢性毒性

最大無影響濃度, *Daphnia magna* (オオミジンコ), 21 d, 子孫の数, 0.0701 mg/l

地上生物に対する毒性

物質は、鳥に対して中等度の急性毒性を示す (LD50 51~500 mg/kg)。

物質は、混餌投与すると、事実上、鳥に対して毒性を示さない (LC50 >5000 ppm)。

経口 LD50, *Colinus virginianus* (コリンウズラ), 死亡率, 139.8mg/kg 体重

食餌 LC50, *Anas platyrhynchos* (マガモ), > 6243mg/kg 餌

土壌生息生物類に対する毒性

LC50, *Eisenia fetida* (ミミズ), 14 d, 55.6 mg/kg

残留性・分解性

生分解性: 生分解は好氣的条件 (有酸素) で起こるのであろう。

10-day Window: 不合格

生分解: 4.9 %

方法: OECD テストガイドライン 301D あるいは同等のもの

理論酸素要求量: 1.281 mg/mg

生物学的酸素要求量 (BOD)

培養時間	BOD
	0.148 mg/mg

水中での安定性 (半減期)

加水分解, 半減期, 2.3 - 4.75 d

光分解性

大気中半減期: 7 - 12 h

生体蓄積性

生体蓄積性: 製品としてのデータなし。類似物質について 生物濃縮の可能性は低い。(BCF < 100 または Log Pow < 3)

n-オクタノール/水分配係数 (log 値) (log Pow): 1.82 - 2.1 測定値

土壌中の移動性

類似物質について

土壌中移動性がきわめて大きい (Koc 0~50)。

分配係数 (Koc): 44.7 測定値

オゾン層への有害性

1,3 - ジクロロプロペンの成層圏のオゾン破壊係数 (ODP) は 0.002 である。(CFC12 の ODP=1 とする。)

他の有害影響

この物質は、難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)があるとは考えられていない。この物質は、極難分解性・極生体蓄積性(vPvB)があるとは考えられていない。

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄方法: 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び地方条令に定められた方法に従って、焼却等の処理を行う。委託する場合は、許可を受けた廃棄物処理業者に委託する。

汚染容器及び包装: 廃容器は内容物を十分除去した後に、法規に従い廃棄する。

14. 輸送上の注意

道路及び鉄道輸送に関する分類 (ADR/RID) :

国連輸送名	PESTICIDE, LIQUID, TOXIC, FLAMMABLE, N.O.S. (1,3-Dichloropropene)
国連番号	UN 2903
国連分類	6.1 (3)
容器等級	II
環境危険有害性	1,3- Dichloropropene

海上輸送に関する分類 (IMO-IMDG) :

国連輸送名	PESTICIDE, LIQUID, TOXIC, FLAMMABLE, N.O.S.(1,3-Dichloropropene)
国連番号	UN 2903
国連分類	6.1 (3)
容器等級	II
海洋汚染物質(該当・非該当)	Yes
MARPOL 73/78 の Annex I または II および IBC または IGC コードに従い積荷を運搬する。	Consult IMO regulations before transporting ocean bulk

航空輸送に関する分類 (IATA/ICAO) :

国連輸送名	Pesticide, liquid, toxic, flammable, n.o.s.(1,3-Dichloropropene)
国連番号	UN 2903
国連分類	6.1 (3)
容器等級	II

国内規制がある場合の規制情報

陸上輸送は、消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれの該当法令に定められた運送方法に従う。海上輸送は、船舶安全法に従う。航空輸送は、航空法に従う。

この情報は、この製品に関わる特定の法令や輸送上の条件を全てお知らせするものではありません。輸送分類は容器の大きさや国や地域の法令により異なることがあります。追加情報は、弊社の営業担当者またはカスタマーサービスより入手してください。この物質の輸送にあたっては、輸送会社の責任において、適用される全ての法律、規制、規則に従ってください。

15. 適用法令

化審法

特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。

化審法 - 既存化学物質及び新規化学物質リスト (ENCS)

意図的使用成分はすべてインベントリー収載済みなし収載免除ないし供給元認証となっている。

労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物

法第 57 条の 2 (施行令別表第 9)

化学名	濃度又は濃度範囲
1, 3-ジクロロプロペン	>= 90.0 - <= 100.0 %

名称等を表示すべき危険物及び有害物

法第 57 条 (施行令第 18 条)

化学名	濃度又は濃度範囲
一・三-ジクロロプロペン	>= 90.0 - <= 100.0 %

特定化学物質障害予防規則

非該当

有機溶剤中毒予防規則

非該当

健康障害防止指針公表物質

非該当

変異原性の認められた化学物質 (既存化学物質)

変異原性物質 (既存)

化学名
1,3-ジクロロプロペン

変異原性の認められた化学物質 (新規届出化学物質)

非該当

労働安全衛生法施行令 - 別表第一 (危険物)

引火性の物

消防法

第4類 引火性液体, 第二石油類, 非水溶性液体, (指定数量 1000 リットル), 危険等級 III, 火気厳禁

化学名
1,3-ジクロロプロペン

毒物及び劇物取締法

劇物

化学名	濃度又は濃度範囲
1, 3-ジクロロプロペン及びこれを含有する製剤	97.5%

医薬用外劇物

化学物質排出把握管理促進法

第1種指定化学物質

化学名	濃度又は濃度範囲
1, 3-ジクロロプロペン	98%

高圧ガス保安法

非該当

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

特別管理産業廃棄物

16. その他の情報

改訂

ID 番号: 99184105 / A151 / 発行日: 2022/06/08 / 版番号: 5.0

凡例

ACGIH	米国。ACGIH 限界閾値 (TLV)
TWA	8 時間、時間加重平均
日本産業衛生学会 (許容濃度)	日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 -I. 化学物質の許容濃度

その他の略語の全文

AICS - オーストラリア化学物質インベントリー; ANTT - ブラジル国家輸送機関; ASTM - 米国材料試験協会; bw - 体重; CMR - 発ガン性、変異原性、生殖毒性があるとされる物質; CPR - 管理製品規則; DIN - ドイツ規格協会基準; DSL - 国内物質リスト (カナダ); ECx - 任意の X% の反応を及ぼすと考えられる濃度; ELx - 任意の X% の反応を及ぼすと考えられる負荷割合; EmS - 緊急時のスケジ

ユーール; ENCS - 化審法の既存および新規化学物質リスト; ErCx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる成長率; ERG - 緊急対応の手引き; GHS - 化学品の分類および表示に関する世界調和システム; GLP - 優良試験所規範; IARC - 国際がん研究機関; IATA - 国際航空運送協会; IBC - 危険化学品のばら積運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則; IC50 - 50%阻害濃度; ICAO - 国際民間航空機関; IECSC - 中国現有化学物質名録; IMDG - 国際海上危険物規程; IMO - 国際海事機関; ISHL - 労働安全衛生法 (日本); ISO - 国際標準化機構; KECI - 韓国既存化学物質名録; LC50 - 50%致死濃度 (半数致死量); LD50 - 50%致死量 (半数致死量); MARPOL - 船舶による汚染の防止のための国際条約; n. o. s. - 他に規定のない限り; Nch - テリ規則; NO(A)EC - 無有害性影響濃度; NO(A)EL - 無有害性影響レベル; NOELR - 無有害性影響負荷割合; NOM - メキシコ公式規則; NTP - 米国国家毒性プログラム; NZIoC - ニュージーランド化学物質台帳; OECD - 経済協力開発機構; OPPTS - 化学物質安全性・公害防止局; PBT - 難分解性・生体蓄積性・有毒性(物質); PICCS - フィリピン化学物質インベントリー; (Q)SAR - (定量的)構造活性相関; REACH - 化学物質の登録、評価、認可および登録 (REACH) に関する規則 (EC) No 1907/2006; SADT - 自己加速分解温度; SDS - 安全データシート; TCSI - 台湾化学物質インベントリー; TDG - 危険物輸送; TSCA - 有害物質規制法 (米国); UN - 米国; UNRTDG - 国際連合危険物輸送勧告; vPvB - 非常に難分解及び非常に高蓄積性; WHMIS - 作業場危険有害性物質情報システム

テレオス・アグ・ソリューションズ株式会社は、お客様や(M)SDSの受領者の皆様が、この(M)SDSの掲載データや、この製品に伴う危険有害性を認識し理解するために、(M)SDSを慎重に検討され、必要に応じて適宜しかるべき専門家にご相談されるようお願いしております。掲載内容は誠意をもって提供したものであり、上述の発効日の時点で正確なものであると考えております。ただし、明示および黙示の保証を行うものではありません。法令の要求事項は、改正されたり、地域により異なることがあります。使用に関する適用法令の遵守は使用者の責任です。ここに掲載された情報は出荷した製品についてのものです。製造会社は製品の使用条件について関知するところではありませんので、製品の安全な使用条件は、使用者の責任において決定して下さい。各製造会社固有の(M)SDSなどの情報源が増加していますが、弊社は弊社以外の製造会社から入手した(M)SDSに関しては一切責任を負いません。他の情報源から入手した(M)SDSをお持ちの場合や、お手元の(M)SDSが最新版であるという確信が持てない場合は、弊社にご連絡ください。

JP